

第90回目のGIS News!です

昨日はバレンタインデーでしたね。義理でも本命でもチョコレートをもらうのは、いつのときでも嬉しいものですね。

さて、今回は前回の防災GISに関する利活用に関して情報を提供していきたいと思います。

避難誘導に関するGISの利用

避難誘導は、以前にも述べられているとおり、平常時の住民へのアプローチが重要なカギです。今のところ、インターネットで自然災害が発生しうる場所を知りたい場合、以下のページにアクセスすることで、地すべりの位置や三次元データを用いた傾斜状態のデータを参照することが出来ます。

地すべり

<http://www.bosai.go.jp/japanese/disaster/index.html>

独立行政法人 防災科学技術研究所

インフラの整備されている場所では、このようなシステムを用いて場所を確認することが可能ですが、地すべりの危険箇所は郊外の山付近であるため、このようなインフラが整っていない可能性があります。また、インフラが整備されていても、実際のところ住民がこれらのサイトを閲覧するかは疑問です。

GISシステムからシミュレートした結果、どんなときに、どの場所に避難すればよいかを住民に周知しておく、あるいは地域消防団の協力をもとに周知する手段が有効ではないでしょうか。

避難状況の把握にGISを利用

避難状況の把握は非常に時間がかかっています。通信業者では、掲示板を公開して、自分の居場所や現状を掲示板で公開できる仕組み作りがなされています。では、将来的に避難状況にGISが一役買うとすれば、GPS携帯での位置確認システムが考えられます。

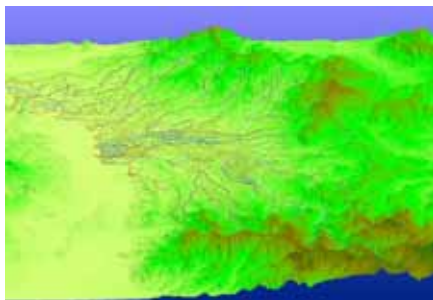
避難誘導、避難状況にしても詳細で正確な情報を発信する為には、基盤となるデータの信頼性や精密性が非常に重要となってきます。

次回のGIS News!

次回は2005年3月15日発行予定です。よろしくおつき合い下さい!

Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 清野 正道 発行日：2005年2月15日



数値地図 1/25000(空間基盤)と
50m メッシュによる鳥瞰図

